

特別養護老人ホーム 湯梨浜はごろも苑

1 基本方針

入居者の意思及び人格を尊重し、常に入居者の立場に立って良質の介護福祉サービスを提案し、個別ケアを実践する。

良質の介護・福祉サービスを提供することにより、入居者がその有する能力に応じ、安心で安全な自律した日常生活を営むことができるよう努める。

地域住民との交流を深め、地域に必要とされ、愛され信頼される施設づくりに努める。

2 利用者の状況（令和5年3月31日現在）

（1）入退所の状況

定 員		前年度末 利用者数	令和３年度中の入退所状況					利 用 延人員	年間平均 稼 働 率	年 度 末 利用者数
			入所	退所	退所理由別					
					施設 移管	契約解除 (入院等)	死亡			
120人		114人	45人	45人	1人	21人	23人	40,097人	91.43%	114人
3年度	120人	110人	45人	54人	0人	26人	27人	41,028人	93.67%	114人

（2）利用者の介護度別人員

性別	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
男 性	0人	0人	6人	13人	7人	26人
女 性	1人	1人	26人	33人	27人	88人
計	1人	1人	32人	46人	34人	114人

（平均介護度4.0）

3 事業の実施状況

（1）ユニットケアの充実

ア 毎月のユニット会議において介護の実践を振り返るとともに、情報共有と統一した介護に努めた。また、ユニット間サービス相互評価を行う中で、目標を設定しケアサービスの様子や接遇なども話し合い、改善や評価を繰り返しながら心のこもった介護が出来るよう取り組んだ。

イ 各ユニット1名ずつ対象を決め、困難ケース・認知症ケースを毎月検討し、利用者一人ひとりと向き合いながら苑生活が生きがいをもって送ることが出来るよう取り組んだ。施設サービス計画は、自律（自分らしさ）を意識し作成し、その計画が実行できるようケアの充実を図った。

ウ 単調になりがちな苑生活が少しでも楽しみとなるよう、各ユニットやフロア毎に工夫を凝らしながら行事やレクリエーションを毎月企画し取り組んでいるが、ユニットにより温度差が見受けられた。

(2) サービスの質の向上

ア 福祉サービス第三者評価を評価実施機関「あいおらいと」により9月27日受審し、評価結果は令和4年12月12日に福祉医療機構「WAMNET」のホームページに公開された。

イ 利用者の新型コロナウイルス感染による重篤化を防ぐため、消毒や標準予防策を実施し感染予防に努めた。

ウ 求められる人物像を示し、それを基にステップアップ計画として職員一人ひとりが目標を設定し、3か月に一度上司等と面談しつつ振り返りと目標達成度を確認した。

エ 各ユニット職員間で報告・連絡・相談しながらユニット運営を行うとともに、ユニットリーダー研修に3名参加しリーダーの育成に努めた。

(3) 人権の尊重

ア 身体拘束及び虐待防止研修を実施し人権意識を高めるとともに、利用者の人権や尊厳を守る支援を継続して行い、身体拘束及び虐待事案は確認されなかった。

イ 虐待の芽チェックリストを3か月に1回実施し、アンケートの内容を各自で振り返り、ケアの振り返りとした。また、アンケートの結果をもとにケアの問題点や課題など情報共有し、不適切ケアの早期発見に努めた。

(4) 介護事故予防の推進

「眠りスキャン」などのICT(情報通信技術)機器やリフト等の福祉用具の活用により身体的、心理的負担軽減を図るよう努めた。ICT機器を導入することにより手間を省くのではなく、一層の目配り気配りをしながら安全・安心な生活が送れるよう取り組んだ。その結果、ベッドからの転落等の事故は減少したが骨折事故が3件発生した。また、マニュアルの遵守を怠ったことにより誤薬・誤配薬・薬の飲ませ忘れが33件発生した。今年度は特に、ヒヤリハット要因表を用いて各ユニットや利用者のリスクの傾向を知り、未然回避できるよう努めた。

(5) 社会貢献の推進

ア 地域住民、福祉団体等の各種会議・研修に「はごろもホール」を開放した。また、近隣地区と緊急時相互協力協定を結び、災害時等の避難場所・福祉避難所として「はごろもホール」を提供することとした。

イ 新型コロナウイルス感染予防のため地域住民の「交流ホール」利用には至らなかった。

(6) 経営改善・基盤の確立

ア 利用者の重度化による入院者・死亡(退所)者の増加と新型コロナウイルスの影響により稼働率が91.55%と目標を大きく下回った。また、入所申し込み者も減少傾向にあり、病院連携室や居宅介護支援事業所、老健等にPR活動を行った。特に倉吉市内からの入所申し込みが大幅に減少した。

イ 入院の長期化回避のために、以上の早期発見、早期対応、速やかな受診に努めた。

(7) 働きやすい職場環境づくり

ア リフトや福祉用具等を活用し、「持ち上げない」「抱えない」介護を行い腰痛予防と介護負担の軽減に努めた。しかし、腰痛による労災事故が1件発生した。また、「眠りスキャン」の利用により異変の早期発見と介護事故の予防に繋がり職員の負担軽減となっ

た。

イ オンラインによる研修（ジョブメドレー）を活用し個々のキャリアアップと、外部講師を招きメンタルヘルス等の研修を行い人材育成・定着に取り組んだ。

（８）新型コロナウイルス等の感染予防

ア 新型コロナウイルス感染予防策を徹底したがクラスターが発生することとなった。利用者１９名・職員３０名が罹患した。こうしたことから継続して標準予防策の徹底と換気の徹底を行った。また、感染症が発生した場合に介護サービスが継続できるよう苑内での職員の応援体制をとったが、感染ユニットで勤務する職員は長時間勤務となり精神的・肉体的負担が増大することとなった。

イ 感染対策委員会を随時（１７回）開催することで情報共有と拡大防止に努めた。

４ 実習、ボランティアの受入状況

（１）実習の受入実績

実習受入先	受入期間	実人員	延人員
鳥取社会福祉専門学校	７月～９月	２人	３１人
鳥取県立総合看護専門学校	１０月	１４人	４６人
湯梨浜中学校	１０月	４人	４人
計		２０人	８１人

（２）ボランティアの受入実績

桔梗の会（生け花） ２名 延べ６名